


個票 19 水路での小動物の落下防止〔農 2(3)①2-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の移動を阻害する要素の排除・抑制
配慮事項	野生動物の移動ルートの確保		
配慮事例	小動物の脱出・移動可能な側溝などによる脱出・移動ルートの確保		
内容	<p>●水路での小動物の落下防止および脱出施設</p>		
	<p>【解説】 ほ場整備後の水田に通常設置されるコンクリート製の用排水路は、カエルなどの小動物にとっては、移動の妨げとなり、一度落ちたらはい上がれない罠となってしまいます。そのため、水路の整備にあたっては、これら小動物への影響の少ない工法を検討する必要があります。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①水路蓋 ②水路からの脱出施設 ③二段式排水路 <p>●配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一度水路に落ちたカエル類を効率よく脱出させることは難しいため、まず落とさないことが重要 ②どこからでも上がることができる ③水流があっても脱出できる ④成体だけでなく幼若個体も脱出できる ⑤水路の両側に脱出できる ⑥晴天時でも高温にならない <p>【事例 1】</p>		
出典：1		<p>【場所】 栃木県西鬼怒川地区</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】 水路蓋の設置、暗渠化等 間伐材を利用して、水路に蓋をすることでカエルなどの水路への転落を防止。</p>	

【事例 2】



出典:1

【場所】

栃木県西鬼怒川地区

【環境配慮の内容と方法、工法】

水路からの脱出施設

水路に転落したカエル等が脱出できるように、スロープを設置。カエル類がスロープを見つけられるように、よどみをつけるなどの工夫が必要である。現場発生材を使用し、生息・生育空間を創出。

【事例 3】

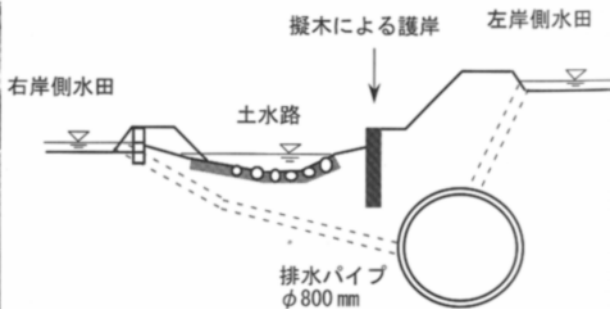
【場所】

栃木県西鬼怒川地区

【環境配慮の内容と方法、工法】

二段式排水路

排水路を段上げて上部に土水路を造成し、地下に排水パイプを埋設した構造。隣接する水田は、上部土水路に接続する水尻と排水パイプに接続する水尻との二つの排水経路を有している。



出典:2

留意点

- ・ 新たに開発された製品・技術は、水田の実際の使用条件下での有効性の検証が不可欠です。

参考資料

- 1 「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き（第3編）『ほ場整備（水田・畑）』」 食料・農業・農村政策審議会、農村振興分科会、農業農村整備部会、技術小委員会 p104
- 2 「農村の生きものを大切にする 水田生態工学入門」 水谷正一